

## 一 二〇〇八年秋の流域ハイキング

十一月二十九日(土)、秋の流域ハイキングを行いました。江戸時代の末期に淡海和尚が島田川流域に普請した、いわゆる淡海道という古道が今も各所に残っています。当時の生活道として重宝され、近年まで住民の足として重要な役割を担ってきました。二〇〇七年には周南市熊毛の筏場周辺から岩国市周東町差川への道を歩きましたが、今回は周東町の西長野からクズシ坂の石畳の道を歩き、さらに御上使峠を越えてひよじに到達しました。西長野には周東町商工会の建立した淡海和尚の碑があります。国道から沢沿いのクズシ坂に入り、峠を越えて上代に出ました。そして上代からは淡海道は今舗装道路に変わっていますが、これを辿り、御上使峠に到着。あいにくの天気ですが、前から雨となり、源九郎山と帰りの石鹿明神は割愛し、午前だけのハイキングとなりましたが、クズシ坂の石畳の美しいこと、今も大切に保存され、そして使われている道でした。二十四名の参加者皆、満足の一日でした。また、ひよじ集会所で昼食休憩の便を図っていただいたひよじの方々には御礼申し上げます。

## 二 二〇〇八年夏の川遊び

八月三日(日)、九回目となった島田川での川遊びが周南市熊毛小松原の広末橋下流域で行われました。川と魚と水生生物に詳しい奥田講師の説明で、五十人もの人々が集まり、じかに川に触れて遊びました。奥田氏は日頃から、じかに川に入り、肌で川を感じることを提唱しています。そうしないと川の本当の姿はわからないと。これは子供だけでなく、大人にも大切なことで、河川行政

担当者には是非実践していただきたい。さて、当日の出来事については、『日刊新周南』に掲載中の奥田賢吾・山・川・海自然探訪から一部抜粋して紹介させていただきます。

― 手網を水面に打ちつけている少年が目にとまった。近づくともまだ一匹も捕れていない。一緒に調査しようということになり、流路が左へと蛇行した上手の平瀬に砂地を見つけ、ドジョウについて話しながら、並んで手網を差し始めた。二メートルも進んだら、何と同時にスジシマドジョウ(注：県内では島田川水系だけに生育が確認されている、まさに島田川の宝物です)をすくったのだ。その後、自信をつけた少年はヨシノボリやドッコをすくい、すっかりカップの仲間入りができたようだ。―

どうでしょう、かつて子供は皆カップであり、地元の海も川も山も、小さな細道もみんな周知していました。貧しかったが、興奮と満足がいっぱいあった昔が懐かしいと思いませんか。そうして、このわくわくした時間と体験を今の子供達にもさせてやりたいと思うのです。

## 三 二〇〇八年夏の県外旅行

七月二十六(土)から二十七(日)にかけて、一泊二日で県外への親睦旅行を行いました。今回は総勢十三名で島根へ。

初日は山陽道から中国道、三次からは国道を北上、途中の道の駅に立ち寄りながら、楽しい旅行が始まりました。昼は出雲で名物の出雲蕎麦を堪能した後、出雲大社参拝、そして新しくできた出雲古代博物館で荒神谷から発掘された大量の銅剣などを鑑賞。しかるのち荒神谷遺跡を訪れ、遺跡の説明と発掘時の話を聞きました。夜は三瓶山麓の温泉で、祝宴。湯もよし、料理もよし、仲間もよし、言うことなし。明くる日、朝から小雨、そ

れでも朝の散策は欠かせません。宿を出発する頃には何と雷。本日メインの三瓶山登山は、雷と雨風で中止と思いましたが、リフト乗り場ではばし待ち、天候回復を祈ると、あら不思議、雲が消え、雨も雷もやんでしまいました。それと、リフトに全員乗り込み、それから山道を辿って全員で三瓶の山頂に到着しました。アカモノの赤くて甘い実、シコクフウロの鮮やかなピンク、そして雲の切れ目から見える三瓶山の景色を堪能して下山。このあと三瓶自然館で小石原埋没林や大化石展も見学し、昼食の後、往路を辿って帰路につきました。

## 四 二〇〇八年度総会

二〇〇八年五月十一日(日)に総会を開きました。総会で、島田川流域の自然と水を守るという本会の活動方針について協議。いくつかの行事を確認し、世話人を改選して終了。その後、皆お待ちかねの名講師金谷氏による講演。「玖西盆地を歩いた人びと」というテーマで、用田・二井寺・通化寺など玖西の地名や古刹の説明を受け、皆満足。内容のある面白い講演でした。また、島津氏や豊臣秀吉や太田蜀山人などの人びとが山陽道沿いのこの玖西の地を訪れていたことも興味深く聞かせていただきました。

午後は、第八回目の島田川源流ハイキングです。岩国市周東町南部の用田にある大黒山・大梅山から流れ出す島田川の支流千力川を歩きました。流域に源流碑を建立し、さらにひと踏ん張りして展望地に登り、熊毛から玖西の大展望を堪能。時期も丁度シイの花期と重なっており、照葉林は金色に染まって、豊かな自然を演出していました。ヤマツツジの花なども堪能し、健脚者はさらに大梅山の稜線を辿り、もう一汗かいて下山しました。

\* 総会で坂田嘉男氏が生前の二〇〇五年に本会

での講演用に書かれた文を紹介させていただきました。そのころから既に体調を崩され、講演も中止となりましたが、島田川で生まれ、島田川で育った坂田氏の「島田川の移り変わりについて」という一文は実に内容の濃いものです。氏の島田川の自然と水及び生き物を守るための提言を多くの人びとに読んでいただけたらと思います。

## 五 事務局より

通信の発行が遅れ、事務局の怠慢を恥じております、申し訳ない。

### ①二〇〇九年総会について

二〇〇九年四月二十六日(日)にいつもの光市勤労者総合センター(現在は光市地域づくり支援センターという名称になっています)で総会、講演会を持ちます。午後は島田川流域ハイキングで、岩国市周東町の源九郎山に登ります。

②会費の納入をお願いします。年会費千円です。家族で会員になっておられる方も、ひと家族で会費は千円です。

次の口座に会費納入をお願いします。

郵便振り込み口座

口座番号〇一三〇〇〇一六二二三四

口座加入者名は

「島田川流域の自然と水を守る会」です。

連絡先 〒七四三ー〇〇一

光市光井七ー五十一七ー二〇一 梶間和恵まで

TEL 〇八三三(七二二) 六六八〇



クズシ坂の石畳道(2009 秋ハイキング)



西長野にある淡海和尚の碑



ひよじ集会所にて秋の流域ハイキング参加者



クズシ坂を登る